

ちえふくろう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO法人 人生まるごと支援

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

【キーパーソン(任意後見受任者)を応援】

ちえふくろう 11月号に書かせていただいた64歳おひとりさま女性Aさんですが1月7日に旅立たれました。

10月末、公証役場にて複数後見の任意後見受任者となったTさんは、がんの痛みや不安で混乱するAさんの尊厳を最期まで尊重し、寄り添い、看取りました。

Aさんは昨年9月末に末期の癌であると診断され10月の受診では医師から『年を越せるかどうか』と言われたのです。

Aさんは『両親を看取り、一人娘で結婚もしなかったので、財産が国庫に入ると、本で読みました。残った財産があれば、お世話になった人や、誰かの役にたてたい』と強く仰いました。

限られた命の時間、急いで任意代理、任意後見、死後事務、遺言、そしてAさんの強い希望で『尊厳死宣言』公正証書を作成しました。NPOの役割のひとつはAさんの願いで初めて主キーパーソンになったTさんをサポートすることです。

具体的には看取りに関して、Aさんの身体や精神状態の変化について、看取りチームになるケアマネジャー、訪問看護師、訪問医、訪問薬局等の役割や、関わり方、そして介護保険、医療保険で出来ること、できないこと、自費サービスの活用の仕方など、これまで在宅で看取っ

た際の経験で得たことを、その場その場でTさんに伝えていきました。

公正証書を作成してからAさんとTさんは毎朝LINEのやり取りを日課としていました。しかし、年が明けて1月3日夜に『Aさんと連絡が取れない』とTさんから電話があり、午後10時過ぎ、Tさんと一緒にAさん宅に向かいました。

鍵を開けて中に入ると、Aさんの友人がいて『もう8時間、トイレから出てこないの』と友人がとても困っていました。

Tさんが『大丈夫ですか、立ち上がるのを手伝いますよ、看護師さん呼びましょうか?』と声をかけても、その度『大丈夫です』と小さな返答。Tさんはずっと声掛けをし、朝を迎えました。私は近くにいてTさんがAさんの尊厳を大切にしていることが痛いほど伝わってきました。私が主キーパーソンだったらどうしたかを一晩中、考えていました。

9時過ぎにAさんから『看護師さんを読んでよい』と許可がでてやっとトイレからベッドに移られました。

それから3日後にAさんは旅立たれました。そしてTさんは死後事務、遺言執行者になり、現在NPOの支援員が引き続きサポートしています。今後も少しでもキーパーソンになる人の応援ができればと考えています。 三国浩晃